年記念を“おまつり”

一九八九年二月一日、満三十歳の誕生日を迎える甘楽町。多くの先人たちが〝郷土甘楽町〟の輝かしい未来の礎を築きあげて来ました。

この三十周年の歩みを記念し、また更に大きく飛躍発展することを願って、町では三十周年各種記念事業を実施します。町民総参加のもと、記念の年にふさわしい盛大な事業になりますようご協力をお願いします。

記念式典　十月十四日(土)
まつり　十月十五日(日)

私たちも30周年

高橋　洋子さん
(福　島)

皮肉にも、私の生まれた年が甘楽町が発足した年とは知りませんでした。原稿を依頼されて知った訳です。

私が通ったころの笹森の保育園や福島の小学校は壊されて、新しく建て直され、今では甘楽一中だけとなりました。時代の流れとして仕方のない事ですが少し寂しく思います。当時は体育館もプールもなく、夏は小幡の小学校まで半日かけてプールを借りに歩いて行ったものです。

今では立派な体育館やプールも完備され、小さいころでは考えられなかった事が次々と実現されています。まして数年後には関越自動車道が通り五分もかからない所にインターチェンジができ、東京までわずか一時間半、まさに夢の様です。

私を取り巻く環境は、時の流れと共に速度を増して変化しているように思います。

三十周年を迎えた甘楽町が、その名のとおり甘く楽しい町となるよう、住民の一員としてできる限りの努力をしてゆきたいと思います。

森平　秀彦さん
(天　引)

新年明けましておめでとうございます。

今年は甘楽町発足三十周年目だそうですが、私も今年三十歳。一生の中の一つの区切りとして節目になる年にしたいと考えています。また、精神的にももう少し成長できたらと思います。

現在私は、小中学生の剣道の指導にあたっています。教えに、『剣道は大勢の先生、先輩の指導を受けて成り立っていく。もしそれを恩に感じたら、恩返しとして今度は後輩に対して同じ気持を伝えなければならない。』『人の一生は誠以外にない。社会のために血を流せ、家のために汗を流せ、友のために涙を流せ。』という言葉があります。

きちんと胸を張って、これらの言葉を子どもたちに伝えられるよう、下地となる環境づくりをして欲しいと思います。

水の確保、ゴルフ場造成における自然、史跡の破壊、その他様々な問題に対して、時流に乗り遅れることなく、思い切った決断で、魅力且つ活力ある町づくりをしていただきたいと希望します。

斉藤利恵子さん
(秋　畑)

一九八九年、新年を迎えると共に甘楽町発足三十周年おめでとうございます。

私が生まれた年に町が発足され、今回お祝いの言葉を書かせていただくこととなりました。

今後、甘楽町が県の国際化と共にますます大きな発展を遂げられますことをお祈りいたします。

甘楽町は三十年前には、四か町村であったとのことですが、現在の私たちの生活環境は、当時からすればずいぶんと恵まれたものになっています。

永い歴史を積み重ね町がこのように発展してきた事は、数多くの方々の熱意があればこそと思われます。経済の発展は町に住む私たちの生活を豊かにしてきました。同じようにこの先も甘楽町の自然環境が豊かであり続けることを希望しています。

私の家は農家であり、まわりを山々に囲まれています。見慣れた風景ですが、一年を通しての山々は、私の眺めることのできるもっとも美しい自然の姿だと思っています。

甘楽町の山なみは、雪深い地方の山々のようでも、特に目立つ形でもなく、その山姿はおだやかなものです。

県内では、開発の波によって近年ゴルフ場の造成などが進んでいるようです。山々も変ってきています。現在の甘楽町の発展や緑豊かな町の自然を当然のことと思ってしまえば、その大切さは少しづつ忘れられてしまうのかもしれません。私自身、見直してみたいと思っています。

今後も甘楽町に豊かな歴史が刻まれて行くことをお祈りいたします。